



文：小川 康成  
ファイナンシャル・プランナー

## 「中小企業憲章」を知っていますか？

こんにちは。雨の多い時期になりましたね。最近では異常気象により、梅雨と呼ぶには多すぎる雨量が降る事も散見され「地球温暖化対策は待たなしで取り組まないと、子供たちに豊かな地球環境を残せないのかもしれない」と感じております。

### ～中小企業憲章～



さて、6月は政府閣議決定された「中小企業憲章」啓蒙月間です。ご存じですか？

私も数年前まで言葉も知りませんでした、なかなか聞かない言葉かも知れませんね。

今から8年前、当時の民主党政権時に閣議決定されたもので、基本理念は「中小企業は、経済や暮らしを支え、牽引する。雇用の大部分を支え、暮らしに潤いを



確かに「2017年中小企業白書」によれば、中小企業の事業者数は381万社、全体の99.7%

雇用者数は、3361万人で70.1%と日本の働く人の3人に2人は中小企業で働いています。

そこで政府は「中小企業憲章」を閣議決定して

『どんな問題も中小企業の立場で考えていく』と宣言しているのです。

日本の中小企業憲章のモデルは、EUの小企業憲章「Think Small First」（小企業の事を最優先に考えよ）を参考に草案が作られたそうです。

日本は、伝統的に傾斜生産方式以来の政府主導で大企業優先の施策を続け、アベノミクス初期には中小企業は、大企業のおこぼれをトリクルダウン方式で配分するという考え方でしたが、このトリクルダウン方式で実際は、大企業は手元資金を内部留保と株主優遇に充ててしまい、当初の計画とは真逆に労働者の賃金が総じて下がるという大誤算で終わりました。

では、大企業に偏重して、政策や資金を投入しても、大多数の国民に豊かさが届かないのであれば、直接「中小企業」へ施策を集中して行けばよいのではないのでしょうか？

中小企業憲章 基本理念

経済産業省HP「中小企業憲章について」

<http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004655/kensho.html>

## ～日本の中小企業の現状～

- 特に建設業・サービス業など人手不足による廃業。(実は、大企業の手人は足りています)
- 後継者不在による廃業
- 企業数は2009年から2014年までの5年間で、古いデータにも係らず39万社減少、現在はさらに加速が進んでいると予測されます。  
特に小規模事業者の廃業が多く、中規模の事業者は増えています。
- 愛知県内でも事業所の数が、前年比1,887社減(マイナス10.7%)の15,724事業所となり、就業者は549人の減少となりました。



こうした中、起業に関して面白いデータがあります。ヨーロッパでは平均して約12%の開業率、それに比べ日本は5.2%。逆に起業に関心のない人は、ヨーロッパ0.3%に対して、日本は77.3%と8割近い人が無関心です。「寄らば大樹の陰」という言葉はありますが…。

また、2016年国連が採択した「Sustainable Development Goals」(略称:SDGs 持続可能な開発の為の目標)内でも日本は、SDGsで貧困について解決の達成度合いは他の先進国に比して低いと評価されています。

中小企業の中でも、さらに格差が生まれつつあるとも言える状況の中で、いかに社員さんと一丸となって生産性を確保して、強い会社になるのかが問われそうです。

### 「教えるとは共に希望を語る事。」



### 学ぶとはまことを胸に刻む事」

ルイ・アラゴン「ストラスプール校の詩」

働き方改革も待たなしで要求されてくる中、某大手自動車メーカーT社の社長が語ったように、「勝つか負けるかではなく、生きるか死ぬか」

変化に対応できた企業だけが生き残る。

すでに会社としての生存を掛けた競争が始まっているのかも知れません。

某中小企業の社長が語った、「**楽をしたいなら、今すぐに経営者をやめなさい**」

という言葉が胸に刺さります。私自身も振り返って、普段から社員さんと会社の将来やなりたい姿を共有する為に語り合っているのか?その時皆はどんな状態で幸せにされているのか?きちんと語らないといけないなあ、と考えさせられる「言葉たち」です。